

2025年度 健生くまのこ園 保育士・保育職員 自己評価 公表用

日頃より当園の保育運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。この度、2025年度の締めくくりとして、保育士・保育補助・子育て支援員による「自己評価」を実施いたしました。その結果に基づき、管理者の視点から現状の分析と次年度への抱負をご報告いたします。

1. 当園の強み：子どもの人権尊重と安全な環境

今回の自己評価で最も高いスコアとなったのは、**「保育理念：子どもの最善の利益」**に関する項目でした。

- 「子どもの人格尊重」や「身体的・精神的苦痛の排除」については、全職員が高い意識を持って取り組んでいることが確認されました。
- また、**「保育士に見守られ、安心感を持って過ごせる環境づくり」**も非常に高い評価となっており、小規模保育ならではの温かく、一人ひとりに寄り添った保育が実践できていると自負しております。

2. 家庭との連携について

保護者の皆様との関わりにおいては、「日々の降園時の対話」や「お子様の成長の喜びの共有」について、職員自身も手応えを感じております。連絡帳や日々の送迎時にお伝えするエピソードを、皆様と分かち合えることが職員の大きな励みとなっております。一方で、園だより等の定期的な発行や、園全体の保育方針をより分かりやすくお伝えする点については課題も見られました。次年度は、より視覚的に、かつ丁寧に当園の保育の「ねらい」が伝わるよう工夫を凝らしてまいります。

3. 今後の課題と改善に向けた取り組み

自己評価を通じて明確になった以下の課題については、2026年度の重点目標として改善に取り組んでまいります。

- 専門性の向上と個別支援の充実**
障害のあるお子様への配慮や個別指導計画の作成、専門機関との連携においてスコアが低迷いたしました。職員一人ひとりの専門知識を高めるため、内部研修の充実と外部専門家を招いた相談体制の強化を図ります。
- 安全・防災体制の再徹底**
設備点検の細分化や、災害時の避難経路・マニュアルの再周知を徹底します。特に地域ハザードマップに基づいた実践的な訓練を行い、大切なお子様の命を守る体制をより強固にします。
- 地域貢献と連携の強化**
小規模保育園として地域に開かれた園を目指し、地域の子育て世帯への情報発信や交流機会の創出を模索してまいります。

結びに

今回の自己評価の結果、職員が「子ども一人ひとりを大切に想う気持ち」を強く持っていることが再確認できました。この強みを土台としつつ、足りない技術や知識を真摯に補い、保護者の皆様がより安心して大切なお子様を預けられる「健生くまのこ園」を築いてまいります。

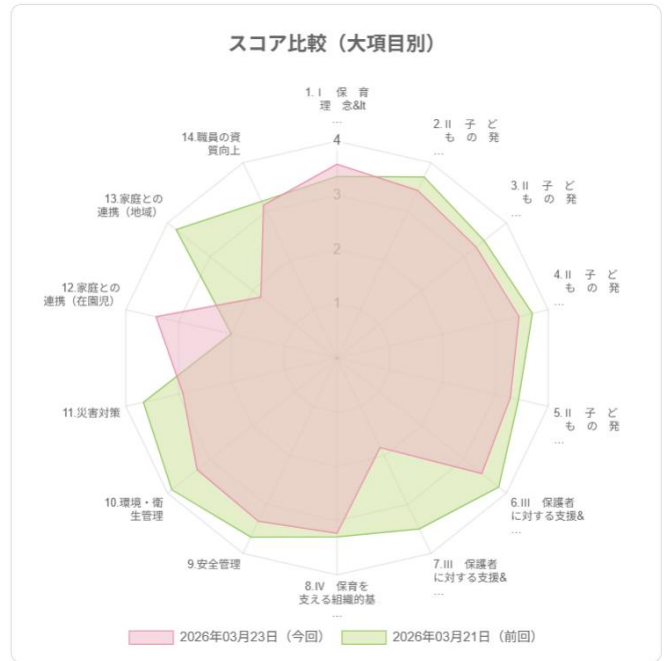
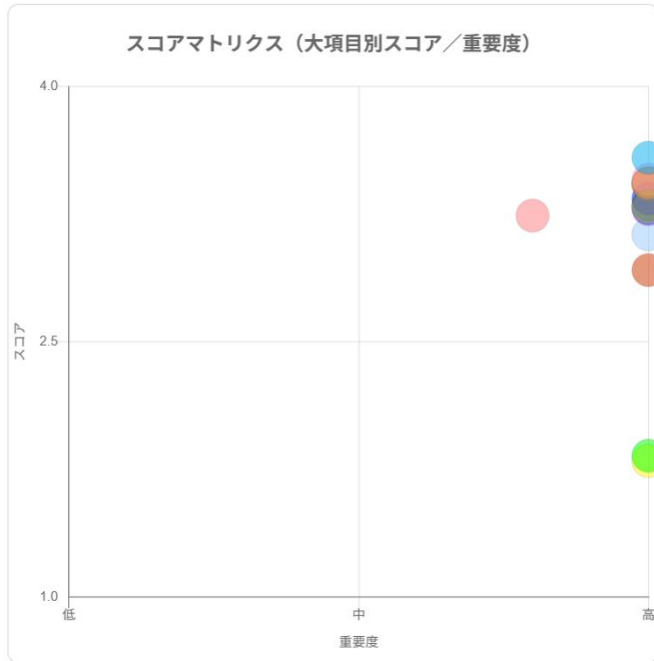
2026年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2026年度 健生くまのこ園（小規模保育） 職員自己評価レポート

実施年月：2026年03月26日

対象職種：保育士、保育補助、子育て支援員

スコアレポート 集計単位：全体 自己評価実施人数：8人



まとめ 大項目ごとのスコアランキング

ランク	項目	スコア	重要度	小項目の表示
1	1. I 保育理念 子どもの最善の利益	3.58	高	非表示
1	1-1.子どもの人権に配慮し、一人一人の人格を尊重する保育を展開していますか	3.88	高	-
2	1-2. 子どもの「安全に安心して生きる権利」「一人一人が尊重される権利」「豊かに育つ権利」「主体的に参加する権利」を保障し、必要な支援を行わなければならないことを知っていますか	3.88	高	-
3	1-3.あなたは日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を傷つけるなど精神的苦痛を与えたりすることがないように配慮していますか	4.00	高	-
4	1-4.一人一人の子どもの思いや欲求を受け止めて保育していますか	3.50	高	-

5	1-5.子どもに、文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努めていますか	3.13	高	-
6	1-6.行動や遊び、服装、仕事など、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか	3.63	高	-
7	1-7.一人一人の子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っていますか	3.43	高	-
8	1-8.園の保育理念や保育方針、目標を理解していますか	3.63	高	-
9	1-9.保育のねらいや内容を保護者にわかるように説明していますか	2.67	高	-
10	1-10.子どもの最善の利益を考慮し、保護者の気持ちを受け止め保育していますか	3.43	高	-
2	4.II 子どもの発達援助
 3 養護と教育の一体的展開	3.45	高	非表示
1	4-1.「養護」と「教育」に関わる目標を目指した保育を行っていますか	3.43	高	-
2	4-2.「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための、援助や関わりであることを理解していますか	3.50	高	-
3	4-3.「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解していますか	3.50	高	-
4	4-4.「養護」が基礎となって5領域における活動や体験が展開していくことを理解していますか	3.50	高	-
5	4-5.養護及び教育に関わる「ねらい」及び「内容」を踏まえ、養護と教育が一体となった保育を展開していますか	3.29	高	-
3	2.II 子どもの発達援助
 1子どもの福祉を増進する事に最もふさわしい生活の場	3.43	高	非表示
1	2-1.子どもが興味関心を示し、主体的、自発的に働きかけることができるように身近な環境を整えていますか	3.25	高	-
2	2-2.清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていくよう努めていますか	3.63	高	-
3	2-3.いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保していますか	3.57	高	-

4	2-4.保育士に見守られ、安心感、安定感を持って過ごせるように努めていますか	4.00	高	-
5	2-5.園生活で、自分でできたという充実感を味わえるような体験を取り入れていますか	3.50	高	-
6	2-6.保育士や友だちと生活する中で、お互いに良さを認めあい、人と関わる力が育つような配慮をしていますか	3.75	高	-
7	2-7.子ども達のけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や社会性が育つ過程として受け止め、その育ちを見守っていますか	3.13	高	-
8	2-8.社会のルールやマナーなどが身につくような、道徳性の芽生えを培う保育をしていますか	3.13	高	-
9	2-9.あなたは必要以上に子どもに指示を出さないように配慮していますか	3.25	高	-
10	2-10.あなたは「早くしましょう」などせかすような言葉や、「だめ」「いけません」など制止するような言葉を不必要に用いないようにしていますか	3.25	高	-
11	2-11.子どもが危険な場所や危険な遊びがわかるように指導したり、安全についての心構えを話したりしていますか	3.38	高	-
12	2-12.子どものその日の様子を確実な方法により職員間で伝達していますか	3.38	高	-
4	12.家庭との連携（在園児）	3.43	高	非表示
1	12-1.保護者のお迎え時、活動内容を伝えるだけでなく、学びや成長の変化を伝えることが出来ている	3.67	高	-
2	12-2.保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在となれるよう心掛け、対応している	3.50	高	-
3	12-3.日頃より保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	3.71	高	-
4	12-4.家庭の状況を把握するため保護者と情報交換を行い、必要に応じて関係職員と共有している	3.20	高	-
5	12-5.園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している	2.50	高	-
5	6.Ⅲ 保護者に対する支援
 1 家庭との緊密な連携	3.42	高	非表示

1	6-1.個々の子どもの、家庭での保育方針を把握していますか	2.60	高	-
2	6-2.保護者とともに子どもの成長の喜びを共有していますか	3.60	高	-
3	6-3.保護者の意見や考えを丁寧に聞き、必要と思う内容については保育に取り入れようとしていますか	3.33	高	-
4	6-4.子育てに関して、保護者と共通理解を得るための話し合いをもっていますか	2.50	高	-
5	6-5.保育の内容について、保護者にわかりやすく丁寧に伝えていきますか	3.50	高	-
6	6-6.子どものその日の様子を保護者に伝え、相互理解を図るようにしていますか	4.00	高	-
7	6-7.送り迎えのときには、保護者に挨拶したり、言葉を交わしたりしていますか	3.83	高	-
8	6-8.保護者の子育て相談など、安心して話せるような雰囲気作りをしていますか	3.40	高	-
9	6-9.保護者の相談を自分一人で抱え込まないで、他の職員や園長に相談するようにしていますか	3.67	高	-
10	6-10.児童相談所や地域の関係機関、病院などの専門機関に相談や連携をとる体制について理解していますか	3.33	高	-
6	9.安全管理	3.34	高	非表示
1	9-1.これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを理解し、定期的に報告、共有をしている	3.63	高	-
2	9-2.睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている	3.75	高	-
3	9-3.事故防止や安全管理に対する国の方針や園のマニュアルなどを理解し、実践している	3.14	高	-
4	9-4.園内の設備、玩具、用具などの点検の仕方、ポイントを理解している	2.75	高	-
5	9-5.日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険性などを理解し、必要に応じて点検している	3.50	高	-

7	10.環境・衛生管理	3.30	高	非表示
1	10-1.子どもが活動しやすい様に保育室の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	3.29	高	-
2	10-2.一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックし、異常があった場合は職員間で共有している	3.38	高	-
3	10-3.感染対策を理解し、実践している	3.25	高	-
8	3.II 子どもの発達援助
 2 生活と発達の連続性	3.29	高	非表示
1	3-1.乳幼児期は、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われる時期であることを理解して保育していますか	3.75	高	-
2	3-2.子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけた新たな能力を獲得していく過程であることを理解していますか	3.63	高	-
3	3-3.子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」を考慮した保育をしていますか	3.13	高	-
4	3-4.子どもはそれまでの体験を基にして、環境に働きかけ、様々な環境と相互作用により発達していくことを理解していますか	3.63	高	-
5	3-5.子どもと生活や遊びを共にするなかで、一人一人の心身の状況を把握していますか	3.38	高	-
6	3-6.心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握していますか	2.88	高	-
7	3-7.特別な支援を必要とする子どもに対しても、その子どもに応じた適切な援助及び環境構成を行い、子ども同士の関わりに配慮し、共に育ちあえるようにしていますか	3.00	高	-
8	3-8.障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけていますか	1.00	高	-
9	3-9.必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けていますか	2.00	高	-
10	3-10.保育所は子どもがその生活時間の大半を過ごす場であることの意味を理解していますか	3.63	高	-
11	3-11.家庭と保育園での連続性を踏まえた生活となっていますか	3.17	高	-

12	3-12.入園から卒園までの連続性を踏まえた保育をしていますか	3.33	高	-
13	3-13.就学に向け、保育園の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報の共有や相互理解など小学校との連携を図っていますか	3.00	高	-
9	5.II 子どもの発達援助
 4 環境を通して行う保育	3.28	高	非表示
1	5-1.あなたは、声の大きさに気をつけ、わかりやすい、心を込めた温かな言葉づかいでゆっくりと話すようにしていますか	3.13	高	-
2	5-2.子どもが感じたことや思いをその子なりに言葉で表現したり、人の話を聞くことの楽しさや伝え合ったりする喜びを味わうことができるよう配慮していますか	3.25	高	-
3	5-3.子どもが十分に身体を動かして遊びを楽しむことができるように、日頃から環境を整えるなどの機会を多く取り入れていますか	3.25	高	-
4	5-4.子どものやりたいという思いや意欲を大切に、様々な表現を楽しむような環境を整えていますか	3.13	高	-
5	5-5.心の安らぎや豊かな感情を体験できるように、自然との触れ合いや社会との関わりを大切にしていますか	3.50	高	-
6	5-6.子どもが生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れることができるような機会をつくっていますか	3.57	高	-
7	5-7.人的環境、物的環境さらには自然や社会の事象などの環境が、相互に関連し合い子どもの生活が豊かになるよう、計画的に環境構成をしていますか	2.83	高	-
8	5-8.長時間にわたる保育の引継ぎの際には、職員間での情報の伝達を適切に行っていますか	3.57	高	-
10	8.IV 保育を支える組織的基盤
 1 健康及び安全の実施体制	3.24	高	非表示
1	8-1.子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を作成している	2.00	高	-
2	8-2.乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	3.50	高	-
3	8-3.保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	3.50	高	-

4	8-4.子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	3.50	高	-
5	8-5.園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知している	3.00	低	-
11	14.職員の資質向上	3.13	高	非表示
1	14-1.園内・外で行われる研修や会議に積極的に参加し、資質向上を図っている	3.00	高	-
2	14-2.個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	3.00	高	-
3	14-3.定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう努めている	2.88	高	-
4	14-4.自身の保育実践について、自ら上司や同僚のアドバイスをもらうよう努め、成長しようとしている	3.38	高	-
5	14-5.園で決定した方針が自身の意見と違うときに、直接その理由を聞いたり、広い視野を持って前向きに考えるようにしている	3.38	高	-
12	11.災害対策	2.92	高	非表示
1	11-1.災害に対する園の方針などを十分に理解している	2.88	高	-
2	11-2.園の災害対応マニュアルの内容を十分に理解している	2.88	高	-
3	11-3.消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	3.00	高	-
4	11-4.保護者との連絡体制や引渡し方法のルールが明確で、それらを十分に理解している	3.00	高	-
5	11-5.ハザードマップを理解し、地震や豪雨の際の園から避難場所への適切な避難経路を把握している	2.86	高	-
13	7.Ⅲ 保護者に対する支援
 2地域における子育て支援	1.83	高	非表示
1	7-1.地域の子育て支援の取組を理解し、園の資源や保育士としての専門性をいかしていますか	2.00	高	-

2	7-2.地域の子育て家庭に子育てに関する情報等を提供していますか	1.67	高	-
14	13.家庭との連携（地域）	1.80	高	非表示
1	13-1.関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している	2.00	高	-
2	13-2.園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	1.00	高	-
3	13-3.地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	2.00	高	-

抽出評価

【1.I 保育理念 /子どもの最善の利益】の面では、各自が理想に近い形で実践できた実感がある。園全体の様子を振り返った際、「理想に近い状態で実践できた」と感じられるようであれば、園として目指している目標と、職員の考えている理想のイメージが共有できており、とても良い状態であると言えます。各職員に対しては出来る範囲でカタグルマ（個人日報）ITCにより毎日フィードバックの時間をとり、各職員個別の自己評価（評価・反省・対策・その他）を具体的に挙げながら、現状の維持、そして今後のさらなる向上に向けてモチベーションを保つ時間がとれたことは評価となりました。園全体を振り返ってみると、園全体としては、各職員とコミュニケーションの機会をとり、目標の再確認をした上で、具体的な行動を示しながら「園として求める姿」を共有していく時間を持つことを推進しました。

一方で**【13.家庭との連携（地域）】**の面では、実践が難しい、もしくは実践できていないと感じる職員が多い傾向にあるため各職員とのコミュニケーションをとる際に、**【13.家庭との連携（地域）】**の中で、具体的に難しさ・やりづらさを感じる点があるかを確認しながら一緒に解決策を考えていく時間がとれるように改善していきます。